

子どもたちが、園・学校という新たな“社会環境”でそろそろ日常を手に入れる時期になりました。入園児にとっては、それまで主な生活環境であった家庭環境からの旅立ちの時期でもあります。6月号の特集企画は、そんな季節感を感じさせる「園医・学校医の現状と展望」です。

人生初の社会環境とも言える園・学校環境において、子どもたちの健康と安全を守る園医・学校医の責務は重大です。この特集企画を通じて、小児医療のアイデンティティ・使命について改めて考えさせられました。

広い守備範囲、タイムリーな介入、予防医療的な心構え、家庭や行政との連携。本特集のいずれの記事も、これらのキーワードを実感させられる内容です。小児医療の縮図がそこにあると感じました。その意味で、「アレルギー疾患をもつ子どもへの対応」にあった“子どもが不自由のない生活を送れるように”という視点は、小児医療の本質を突く表現として印象に残りました。

小児医療のキーワードのひとつとして臨界期があります。多くの病態、疾病において、治療機会を逸さず適時の介入を行うためには園医・学校医の存在が不可欠です。例えば、幼少期は視覚機能の発達が著しい時期であり、眼科健診は大きな意義を持ちま

す。見逃されやすい問題を早期に拾い上げるための運動健診・側弯症健診も同様です。また、「肥満・やせへの対応」も適時介入の機会を逃さないという小児医療の原則を再認識させられるテーマです。

平時から事故、災害、感染症アウトブレイクに備え、策を講じ、事あれば適時に対応することも小児医療の守備範囲です。創造力をもって重大事態を予見、予防することの重要性を考えさせられるテーマです。

小児医療における「疾病構造変化」の代表例は、心の問題の増加です。不登校、いじめ、虐待の増加も看過できません。また、性に関する問題も、相談しづらく、大人も教育を受けていないため、対応が難しい領域です。メンタルヘルスを含めた思春期医療も重要性を増している領域です。また、デジタルデバイスの使用実態と依存も大きな社会問題となっています。これらの問題の多くが学校を舞台としていることは明らかです。専門家の方々に園医・学校医がなすべきこと・できることを解説頂きました。

園・学校環境の危うさと存在意義が、共にこの特集に表現されています。小児科医が果たすべき役割の広がりを実感していただければ幸いです。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第65巻 第6号 6月号

2024年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,190円（本体2,900円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。